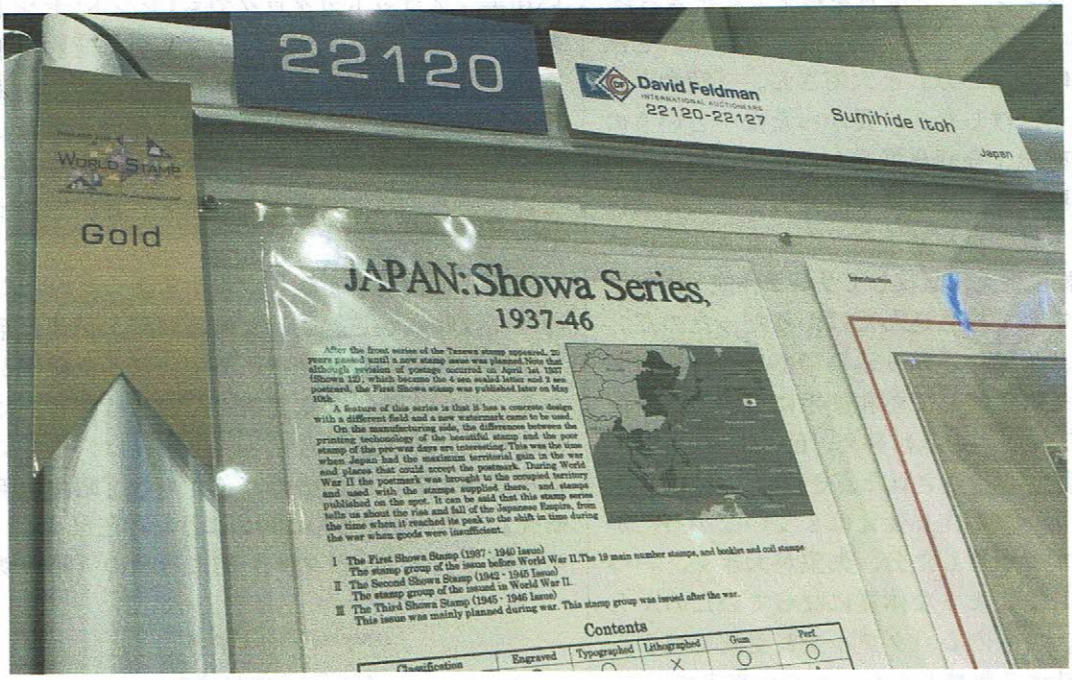
152 長崎郵趣

2018. 12. 16



今度こそは、と挑み続けて　伊藤純英

Thailand2018 国際切手展金賞受賞報告

さる2018年11月28日（水）から12月３日（月）までタイ王国バンコク市のショッピングモール「サイアム・パラゴン」５階で開催された標記切手展において「昭和切手」がついに金賞に到達した。日本からは２０作品（チャンピオンクラス・文献部門除く）が競争部門に出品されたが，その中の金賞５作品中２位の９２点という高得点をマークした。

2003年全日展で金賞+特別賞を得て，2004年シドニーで開催された国際切手展に出品以来，14年12回目出品での金賞受賞であった。

上写真：受賞した作品

左写真：パルマレスでの金賞受賞

今度こそは，と挑み続けて

伊藤　純英

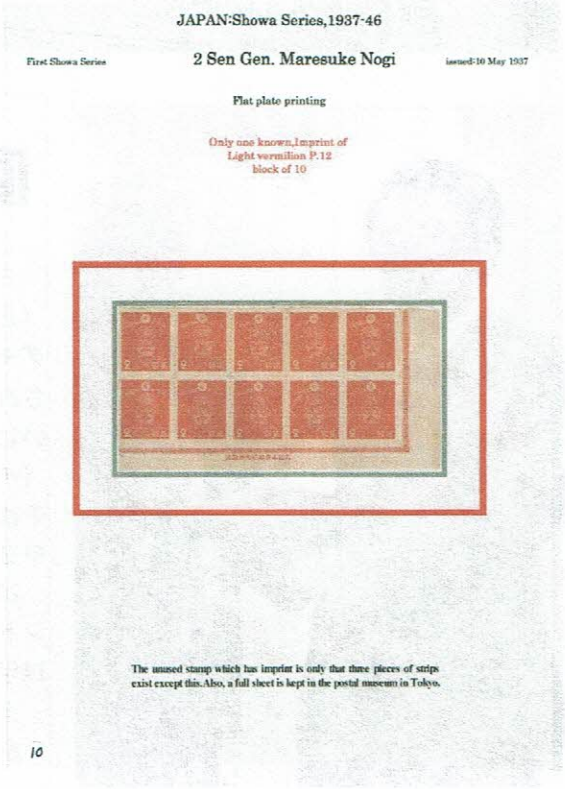
11月30日バンコク5日目 切手展3日目。午後から切手展会場。会場入口でサブコミッショナーの大沼夫妻の奥様が駆け寄って，「コングラッチュレーション！」と受賞を教えてくださった。金賞とのこと。思わず「どっちですか？」と訊く。「長崎でない方」と大沼さん。「昭和か」と少し拍子抜けした。「長かったな」というのが最初の感想。今回自信があったのは実は「長崎の外国郵便」。９月のマカオ展で井上審査員から指摘された点を踏まえ，全１２８リーフの構成を大幅に変え，徹夜してリーフ作成・印刷・貼り込みをして持ち込んだばかりだったのだ。後半は１リーフ２通貼り込みでボリューム感も出した。それに対して昭和切手については，最近入ったアイテムを入れ替え，前回Bandung展で井上審査員から指摘された点を修正しただけで，全１２８リーフの作り変えはしていなかったからだ。今まで期待した分，失望が大きく，いつしか期待しないような体質になっていたのかもしれない。でも内心「ダブル金賞受賞では？」と少し期待する気持ちもあったのは事実である。会場からはスカイプで日本の家族にＴＶ中継。妻も子供たちも心から喜んでくれた，ほんとうだ！と。リアルタイムでＴＶ電話ができるのだからすごい時代になったものである。

全日本切手展2003で金賞＋特別賞，その翌年のシドニーで行われたPacific explore 2004 での賞はＶ（金銀賞）。以来，国際展で6度の金銀賞受賞。Bangkok2010でＬＶ（大金銀賞）。タイは私にとって縁起のいい土地。Bangkok2010はFIPA展だが，翌年のPhilaNippon2011でも大金銀賞。FIPでも大金銀賞を維持できた。その後，Thailand2016,Melbourne2017,Bandung2017と大金銀賞が続く。大金銀賞が5回続いたことになる。

その間，国内展においては招待出品のみ。全日本切手展には，ていぱーくとすみだでの2度の招待出品，JAPEX2012でも招待出品だが，競争展でもいいということで，金賞＋特別賞。

日本国内には，蒐集人口も多く，参観者にもある程度の知識はあるので，苦労はしないが，国際展の外国人審査員にとっては，馴染みのない切手。スコットカタログでも1セント2セントのチープな切手。まず多くの審査員に昭和切手を知ってもらうところから始まった。昭和切手の国際的地位向上に私の貢献度は高いと自負している。今回は，日本人の審査員の全く関与していないところでの審査だそうで，自信を持っていいそうだ。

（回想）昭和切手を深く蒐集するようになったのは高校時代から。当時『郵趣岡崎』掲載の第３次昭和切手の定常変種に夢中になった記憶がある。発行人の祖父江義信さんの名は深く心に刻まれた。中大法に合格して上京後は，蒐集に拍車がかかる。その頃のバイブルは『昭和切手研究』。新井紀元さんは神のような存在だった。その頃『フィラテリスト』誌に連載の「昭和切


JAPAN:Showa Series,1937-46

First Showa Series　2 Sen Gen. Maresuke Nogi　issued:10 May 1937

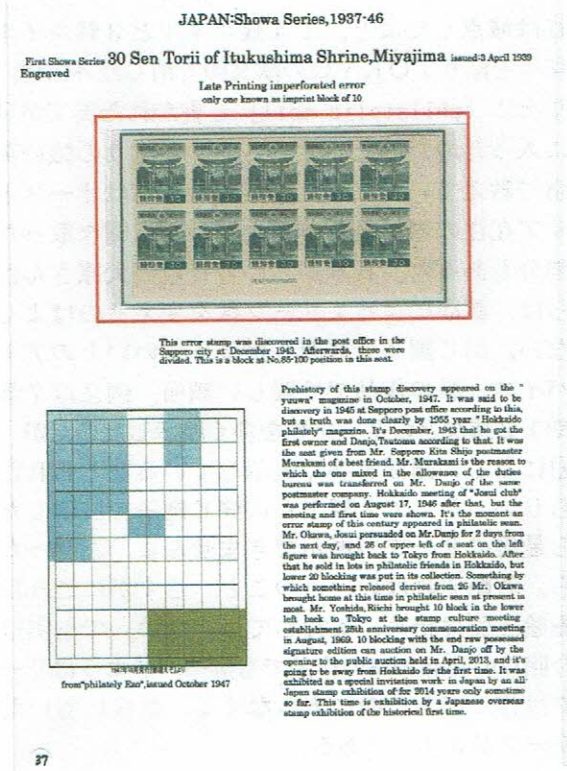
Flat plate printing

Only one known,Imprint of
Light vermilion P.12
block of 10

The unused stamp which has imprint is only that three pieces of strips exist except this.Also, a full sheet is kept in the postal museum in Tokyo.

10

手とその集め方」は毎号楽しみにしていた。当時の昭和切手の大御所の方々のコレクションを成田弘さんが記事にまとめられた連載だった。成田さんとは，ヤング会（のちの江戸悪奴会）の月例会でお会いしていたので，お世話になった。この頃30銭無目打第１コーナーを買って，長い間コレクションの名刺がわりになっていた。『日本切手名鑑』の昭和のベースコレクションにもなった。『フィラテリスト』誌の「オークションの記録」ページのゴーストライターをやっていた関係で日本郵趣出版に毎月出社して田辺猛さんの席の隣で電話をかけていた。そのつながりで自然と名鑑の話になった。日本切手専門カタログが出版されることになったときも，成田さんから頼まれて昭和切手の消印評価のページの下原稿も作った。昭和切手の新しい発見があいついだ時期で，とても面白い時期だった。切手展では銘版付１０枚ブロックとエンタイアというリーフから，定常変種や消印満月による使用例展示が入り，バラエティを配するリーフ作りへとの変化していく過渡期だったように思う。※思い入れの強い３０銭無目打エラー切手の記事は前号の「長崎郵趣１５１号」記事参照。



当時のコレクションのレベルを図る指標となる切手は二つ。「乃木２銭朱色単線１２」が入っていれば初級から中級への仲間入り。昭和切手専門カタログによると単片で２００枚，田型若干の存在数だからひとつの指標になる。

次に「３０銭無目打エラー」が入れば中級から上級への仲間入りだった。現存数はペアや田型で十組程度だから，ひとつの指標になる。そのエラー切手を入手し，全日本切手展８０ハイジュニア部門に出品するが，金銀賞。金賞は同年齢のＹ氏だった。

翌年日本で開催された本格的な国際切手展「Phila Nippon81」に「第１次昭和切手」を出品，銀賞。当時国際展銀賞というのは，庶民が獲得できる希望の賞だった。「国際切手展銀賞の会」なるものが存在したほどだ。当時，国際切手展に出品する分野は，手彫切手か小判切手。小判切手を年間１００万円購入して２０年たったら２０００万円のコレクション。それに匹敵するのが国際切手展銀賞とされたのである。当時国際展には銀・金銀・金の区分しかなかったからである。

１９８７年福岡で開催された第５回ＪＰＳ正

会員大会（のちの全国郵趣大会）に要請され昭和切手を展示したところ，水原明窓理事長の目に留まり，ご自身がコミッショナーをつとめるフランス展へ出品要請を受けた。「Philex France89」にジュニア部門でなく一般部門から「第１次昭和切手」を出品，銀賞。水原理事長のアドバイスは「昭和切手は郵便史的に面白いから郵便史の観点でまとめるといいよ」というものであった。

その後「Phila Nippon91」でも「第１次昭和切手」を出品し，銀賞。ここで昭和切手の限界を悟った，やはりクラッシックには勝てない，と。以後，研究を続けていた長崎の外国郵便印の蒐集へと興味の対象は移っていった。全日展９３金銀で国際展出品資格を得て，「Phila Nippon2001」で国際展デビュー金銀。「Hong Kong2008」で大金銀。こちらが先にＬＶになった。

さて，「Phila Nippon91」以後，一方では昭和切手の蒐集が過熱し，値段が上がる一方。手彫切手や小判切手が相対的に安く感じられる時期になった。盟友田畑氏も小判切手へ。祖父江氏や千葉氏は手彫切手へ移行され，ともに大金賞のコレクションを作り上げられた。昭和切手が手彫切手に化けたのである。

２１世紀に入り，ベルギーの国際切手展で林国博さんの「昭和切手」が金賞受賞の報。時代が変わったのを感じた。

２００２年長い離島勤務が終わり，実家から通える勤務先になった。ちょうどこの頃，祖父江コレクションを始め，大谷コレクションなど昭和切手のまとまったコレクションが売りに出された。昭和切手の名品といわれるものは収まるべきところに収まっており，流動のない時期であっただけにチャンスであった。この時点で昭和切手の金賞受賞作品は祖父江作品のみである。これは全日展であり，JAPEXの金賞は２０１２年まで出なかった。

初めて「昭和切手」として，JAPEX2002に昭和切手８フレーム作品を出すも，構成で大幅に減点され金賞に２点足りない大金銀賞。これは水原理事長の郵便史の観点からフレーム構成をしたためであった。私としては長年の宿題を提出した気分だった。その後全日展2003に３フレーム作品で金＋特別賞。以後の受賞は冒頭に述べたとおりである。

国際展に出品して実際に現地を訪れ参観したのは，Bangkok2007。審査員との対話では，アンドリュー・チャンさんのアドバイスが，その後の作品作りの指針になった。この年の作品は発行順の展示だったが，まずこの指摘。伝統郵趣というのは，カタログの額面順に並べること，額面ごとのリーフにはエッセイ・プルーフ・みほん・未使用・カバーを配置するものだということを，ほかの作品のところに連れて行って，これが伝統郵趣の作品だよと丁寧に教えてくださった。香港占領期のカバー２次７銭３枚貼重量便書留のカバーは５フレーム作品には必要ないものだと言われ，でもすぐに８フレーム作品になるから頑張ってほしい，あなたの８フレーム作品が見たいと激励された。この言葉を信じて出し続けることになる。

チーフ審査員のベストン卿（現ＦＩＰプレジデント）からは，私はこの字体（パレススクリプト）は嫌いだ，でも減点はしていないよ，（別の作品の前に連れて行き），こんな字体がいいんだよ，と実物で示してくださった。もう一つ，フィラテリックメールはよくないね，これは減点したよと，１４銭コイルと３銭コイル切手を貼りＴＯＫＹＯの欧文印で消した外信便。左上に「philatelic mail」と書かれた英文が目に入ったのだった。オーストリア訛りの強い英語で教えていただいた。英語の細部はオーストリア在住の甥に後日音声を聞かせて聞き取った部分もあった。日本からの審査員の大原さんからは，額面によってリーフ数を変えるのはよくない，同じ調子で展開したほうがいいとのアドバイス。私の作品では難しい額面，例えば７銭や１２銭などのリーフ数を多く展示したのだが，逆に易しい額面を多く展示しているととられたらしい。そこで大原さんに同じ調子で展示したら最後のリーフが展示できませんよ，と言ったら，省略すればいいとのこと。さすがにこれは極論と受け止め，実行してはいない。でも実は今回Thailand2018の作品でも実際同じようにリーフは作ってあるのに入らなくて，最後に省いたリーフが３リーフある。

その後の国際展での審査員との対話も，実りあるものが多く，得るものも大きかった。出品者に敬意を払い，どうすればよくなるのかも，実際の上位作品の前で示してくれた。

Thailand2016のシンガポールの審査員は金賞になるのに必要なもの「エッセイやプルーフ」が入っていない，とのこと。

Melbourne2017ではチャイニーズ・タイペイの審査員が「Ｓｈｏｗａ？」とニヤリとしてインドネシアの若い審査員に振った。その若い審査員は，別の作品の前に連れて行き，このような展開をするといい，といってみたのは珍しいブロックを１リーフに１点，２点展示した作品。まだまだ私の作品は切手を詰め込みすぎているとの指摘だった。

Bandung2017ではチャイニーズ・タイペイの審査員。枝点を教えてほしいとリクエストすると，審査票を見せてくれた。びっくり９３点が８８点に訂正されてある。なにかの都合で５点減点になっていた。その後アンドリュー・チャンさんにも意見を求めたら，「この枠が少し大きいね」と切手の枠が大きいのを直してないのを指摘されたのだった。この時は徹夜続きで作品を作っていたのを妻が見るに見かねて，貼り込みを手伝ってくれたのだった。作品が帰って自宅で見直しているときに１０円のみほん切手の欄に，外したはずの満月印が貼ってあったのを見つけて絶句したものだった。会場で見た時も気づかなかったのだ。

今回のThailand2018では，この枠の作り替えと斜めに貼ってあるアイテムの貼り直しをした。今回も妻が手伝うよ，とのことだったが，気持ちだけいただき，貼り込みは妻が寝ている間に仕上げた。

２０１５年刊行の鳴美「昭和切手専門型録」を作るとき，代表の山崎氏が拙宅を訪ねてこられ，切手のスキャン作業をするも１日で終わらず，急遽ビジネスホテルに宿泊し，翌日までかかったほどで，前半部分は私の切手が多く使用されている。名鑑に続き，ベースコレクションになったのである。

昭和切手は新しい感覚で整理する方が現れ，刺激を受けている。製造面では実用版についてまだまだ分かっていないことも多い。今後は，こちらの研究面をしばらく楽しんでいき，切手展については当面はPhila Nippon2021出品を目標に目指していこうと思う。

わが人生の目標は昭和切手１００年にあたる2037年までは長生きするということだ。

以上今回，Ｇ受賞に際して思いついたことを書き記してみた。最近，マイナスな言葉は口にしないようにしている。短い人生，瑣事にとらわれず，ゆったりと長生きしたいものである。

最後に，このような記事を書く機会を与えていただいた吉田敬氏に感謝の言葉をささげたい。

※元々フィラテリストマガジン用の原稿（了）

**********以下図版の説明**********

010　前回の展示からあえてエラー２点を外した。唯一の銘付１０枚ブロックの表現。郵政博物館にシートありの記述。

037　前回説明がくどいということだったので，作り替えなければならないと思いながら，時間切れでそのまま提出。乃木のページみたいに中央に１点配置に次回はする予定。現存するポジションの説明。１シート発見されたが，全て現存しているわけでなく，３０枚足らずのうちのペアや田型なので１０組程度の現存ということになる。

068　今回作り直したページ。横すかしの銘付10枚ブロックが入った。しかもこの切手では望むべくもないほどのウェルセンター。銘付は３枚や８枚も存在するが，10枚はほかに１点みたような気がするだけだ。ＪＡＰＥＸ２０１２記念出版物では８枚ブロックが掲載。黒のハウイドを使うことにより，透かしの状態が表面からわかる。下の糊上印刷は，分譲があったときにセンターが一番いいものを注文。２銭も４０銭も横すかしはオフセンターのものが多い。というかオフセンターの切手がデフォルトといっていい。しかしシートのポジションによって偶然ウェルセンターになった場所がある。そんな切手を選びたいものである。また横すかしだとわかるためには耳紙付が望ましい。いくら珍しくても印面に食い込むオフセンターの切手は私はコレクションには入れたくない。